



水稲 殺虫・殺菌剤/育苗箱・移植時側条施用剤

# ブーンセクテラ®

いもち病

ウンカ類

初期害虫

チョウ目

箱粒剤

高密度は種対応

は種前から

移植時側条施用

WCS\*使用可

稲の病害抵抗性がアップ!

# 病害虫から 守る!

- ・は種前～移植当日まで箱施用可能。
- ・高密度は種対応、WCS\*使用可。
- ・長い残効性。



いもち病



トビイロウンカ



コブノメイガ



イネミズゾウムシ



Pyralis® active

powered by  
RYNAXYPYR®  
ACTIVE INGREDIENT

TM コルテバ・アクリサイエンスならびにその関連会社商標  
RYNAXYPYR®は、FMC Corporationまたは  
その米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

ブーン®、セクテラ®、®はクミアイ化学工業(株)の登録商標

※WCS:稲発酵粗飼料

# ブーンゼクテラ<sup>®</sup>

箱粒剤

有効成分 クロラントラニプロール…………… 0.75%  
トリフルメゾピリム…………… 0.75%  
ジクロベンチアゾクス…………… 2.0%  
人畜毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

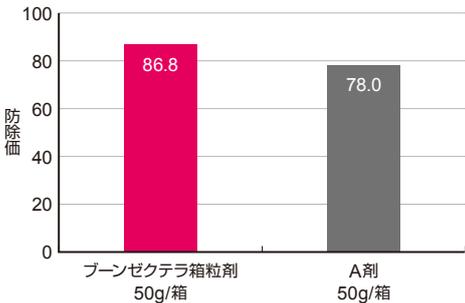
**特長** ▶ いもち病に優れた効果と長い残効性  
抵抗性ウンカ類、チョウ目害虫、初期害虫に優れた効果  
稲に安全性が高く、は種前～移植当日まで使用可能

**適用病害虫と使用方法** 2024年2月現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	ジクロベンチアゾクスを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病、ウンカ類	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g  高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)、苗立枯細菌病		は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。			
	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、ウンカ類、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ		は種時(覆土前) ~ 移植当日					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)、苗立枯細菌病		は種時(覆土前)					
稲	いもち病、ウンカ類、コブノメイガ	1kg/10a	移植時		側条施用			

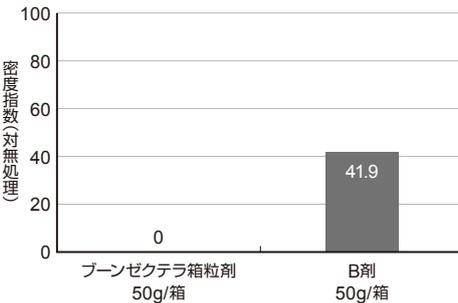
**新農薬実用化試験成績**

●いもち病(葉)に対する効果(移植当日処理)



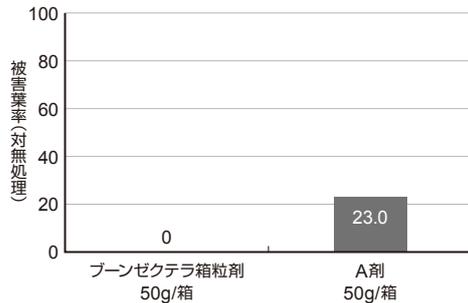
2017年 山口県農林総合技術センター  
品 種：関東90号  
区制・面積：1区73.0㎡(15.2m×4.8m) 3か所調査  
播 種：5月19日 移植：6月8日  
処 理 日：6月8日  
発 生 状 況：葉いもち多発生(接種)  
調 査 日：8月10日  
調 査 方 法：各区20株について株当り5茎、計100茎の止葉から上位3葉の病斑数より防除値を算出した。

●トビウロウンカに対する効果(は種時覆土前処理)



2017年 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場  
品 種：ヒノヒカリ  
区制・面積：1区114㎡(6m×19m) 連制なし(区内を3区画に分割して調査)  
播 種：6月7日 移植：6月26日  
処 理 日：6月7日  
発 生 状 況：少発生→中発生  
調 査 日：9月6日  
調 査 方 法：各区1区画あたり25株について払い落としかで虫数を調査し密度指数を算出した。

●コブノメイガに対する効果(移植当日処理)



2017年 山口県農林総合技術センター  
品 種：ヒノヒカリ  
区制・面積：1区72.0㎡(16.0m×4.5m)、2連制  
播 種：6月1日 移植：6月20日  
処 理 日：6月20日  
発 生 状 況：第1世代 極少、第2世代 少  
調 査 日：9月7日  
調 査 方 法：各調査力所50株について上位3葉を対象に被害葉を調査し、被害率を算出した。

**【使用上の注意事項】**

- 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落としてください。
- 苗を田植え機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落としその後軽く灌水してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 側条施用をする場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後に田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行ってください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷く

- など、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…密封し、直射日光を避け、冷涼・乾燥した場所に保管してください。

詳しい使い方、登録内容とSDSはこちらから。

本資料は2024年2月現在の知見に基づいて制作しております。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。